

ブルーライン車両の更新について

横浜市営地下鉄では、平成28年度末に、ブルーラインでは11年ぶりの新型車両となる3000V形車両を1編成導入しました。

この車両は、現在ブルーラインで保有している車両のうち最も古い形式である3000A形車両が、製造から約25年経過して各部の経年劣化が進んでいるため、このA形車両に代わる車両として導入したものです。

更に32年度から34年度に3000V形2次車を7編成追加導入して、順次A形車両と置き換えていきます。

1 ブルーライン車両について

ブルーラインの概要	車両の概要	車両運用	車両の使用年限
営業距離 40.4km 駅数 32 駅 運転間隔 朝 4分 20 秒	6 両編成 第三軌条式	34 編成 (ラッシュ運用) 3 編成 (予備車両) 1 編成 (整備車両)	電気品ユニット: 25 年 電気部品: 13 年

各形式の導入時期と現在の使用年数

形式	編成数	導入時期	使用年数
A形	8	導入 H4 廃車 H32~	25
N形	7	導入 H11	18
R形	14	導入 H16	13
S形	8	導入 H17	12
V形	1	導入 H28 導入 H32~	

2 新型車両導入スケジュール

3000V形1次車は28年度末に導入し、4月9日より運用を開始しています。

2次車7編成については車両を5つ(車体、台車、ブレーキ、制御装置、自動列車制御装置)に分割して発注します。車体以外は28年度内に契約しており、車体についても29年度中に契約し、32年度から順次導入を予定しています。

形式	編成数	金額	導入時期
3000V形1次車	1	24.4億円(契約)	28年度末導入
3000V形2次車	7	91.6億円(予定)	32年度(3編成)、33年度(2編成)、34年度(2編成)

3 新型車両の概要

便利で快適な車両を目指し、行先案内や空調の充実、車いす・ベビーカー用設備の充実、火災対策の強化、最新技術や省エネ機器の採用など、快適性、安全性、信頼性と環境に配慮しています。

《主な機能強化》

- 安全性向上： 火災対策強化(貫通扉)、PQモニタリング台車(詳細3ページ)
- 省エネ化： 高効率モーター、高効率インバーター、照明のLED化
- バリアフリー向上： 車いすエリア充実、ゆずりあいエリアの低い荷棚
- 運転・保守性の向上： 操作性向上、長寿命機器の採用

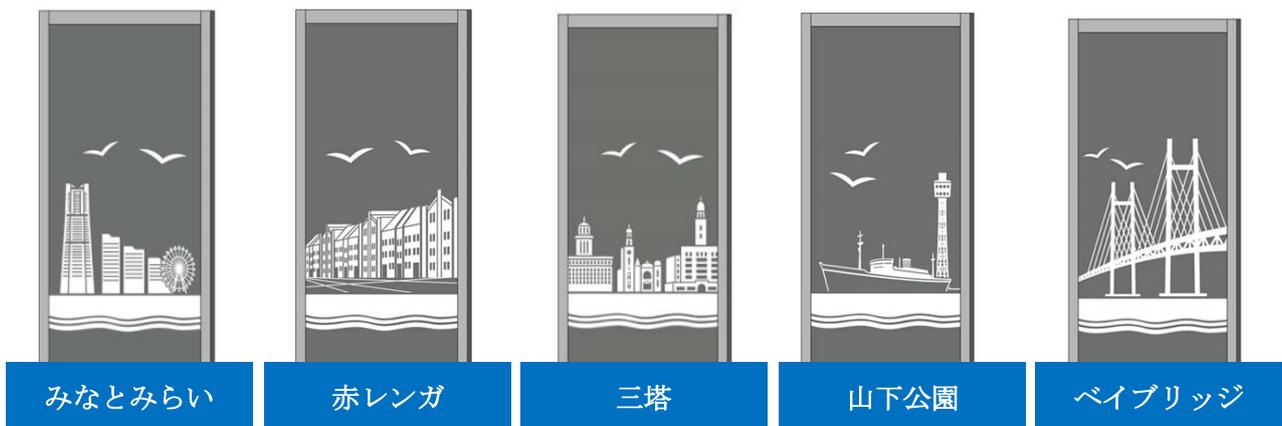
3000V形車両外観



3000V形車両室内のデザイン



3000V形車両室内貫通扉のデザイン



3000V形車両室内案内装置



PQ モニタリング台車について

平成 12 年の東京メトロ日比谷線脱線事故の原因となったせり上がり脱線を防止するために、走行しながら常時線路の脱線係数（PQ 値）を測定できる装置です。

本台車の導入は、東京メトロ、京王電鉄に続き日本で 3 番目の導入となります。

PQ 値とは、列車が曲線部を走行する際に、列車の車輪とレールとの間に働く横方向の力 Q（横圧）と縦方向の力 P（輪重）の比 Q/P で、走行する列車の重量バランスやレールと車輪の間の摩擦係数、左右のレールの平面性などによって変化をします。

この PQ 値が高くなることで、車輪が走行中に徐々にレールの上にせり上がり脱線する「せり上がり脱線」が起りやすくなります。

4 試乗会について

4 月 9 日の運用開始前に、お客様への日頃の感謝をこめて 3000V 形車両の試乗会を 4 月 8 日（土）に開催し、雨の降る中 121 名のお客様にご参加いただきました。

開催日時 平成 29 年 4 月 8 日（土）9 時～11 時

試乗ルート 上永谷車両基地～あざみ野駅間

イベント 車両紹介、じゃんけん大会、車内放送体験、写真撮影

参加者 121 名（応募 871 名）

新型車両に対するご意見

「たくさんの青色で包まれた車内はとても爽快で清々しく、すごく気持ちがいいです。」



試乗会車内風景



試乗会車内風景